



令和6年度 「家庭基礎」学習指導計画

学科	メカニカル・電気・建築	コース		学年	2	履修	必修
教科	家庭	科目名	家庭基礎	単位数	2	時数	70
教科書名(発行所)	家庭基礎 (実教出版)			副教材(発行所)	ニュービジュアル家庭科 (実教出版)		
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</li> <li>様々な人々と協働し、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を主体的に創造しようとする実践的な態度を養う。</li> </ul>						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法		
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ				
1	4	自分らしい生き方と家族	自立と共生 ライフキャリア 共に生きる家族 家族に関する法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>自立の種類とそれぞれの具体的な内容を把握する。</li> <li>男女社会責任の実現をめざす多様な社会的役割について理解し、どのような青年期を生きるかを考えることができるようにする。</li> <li>労働の理解、またその意義について多面的に理解できるようにする。</li> <li>結婚、専業主婦、共働きや働き方について理解する。</li> <li>時代とともに変化する家族・育児について学習し、現在の家族の抱える課題などを理解する。</li> <li>児童を及ぼす社会や地域のかかわりを通して、私たちもその一員であるという自覚を持つことができるようにする。</li> <li>家族に関する法律の理念や背景、改正点について理解する。</li> <li>法律は自分たち一人ひとりの認識にもとづく社会の規範を定めて作り、改正されていくことを理解する。</li> </ul>	○	○	○	10	授業プリント提出 1学期期末考査		
	5			高齢者とかかわる	高齢社会に生きる 高齢者を知る 高齢者の自立を支える 高齢社会を支えるしくみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者、高齢社会への理解を世界の動向からも探る。</li> <li>高齢者の心身の特徴や生活を客観的に理解する。</li> <li>高齢期の心身の老化による生活行動の不安定を学び、改善をする。</li> <li>介護の役割や必要な役割を理解する。</li> <li>介護保険制度について理解する。</li> <li>介護をめぐっての課題について理解する。</li> </ul>	○			○	○
	6	社会とかかわる	支えあって生きる 共生社会を生きる 日本の食文化の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人や家庭を支える社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解する。</li> <li>将来に向けた課題に気づく。</li> <li>安全な社会の形成に向けたボランティア活動やボランティア活動の意義、関心を持って取り組む活動につなげる。</li> </ul>	○	○	○	1			
	7			私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活の現状と今後の課題を理解する。</li> <li>健康で豊かな食生活を営むための工夫や工夫を理解する。</li> </ul>	○	○	○		1	
	2	8	食生活をつくる	栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。</li> </ul>	○	○	○		3	
					食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとに旬の食材があることを理解する。</li> <li>表示の読み方を理解し、情報を正確に理解する。</li> <li>食品を見分け、よりよい選択ができるようにする。</li> </ul>	○	○		○	2
					食事の計画と調理	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の食生活の計画と管理ができるようになる。</li> <li>衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。</li> <li>年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の量を理解する。</li> </ul>	○	○		○	3
これからの食生活を考える					<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食文化の現状と今後の課題を理解する。</li> <li>日本の食文化の発展を促すためにできることを考える。</li> <li>情報に振り回されなく安全な食品を選択できるようにする。</li> </ul>	○	○	○	1		
子どもとかかわる					子どもとは 子どもの発達 子どもの生活 子どもをかくむ 子どものための社会福祉	<ul style="list-style-type: none"> <li>育児を学ぶ意義について理解する。</li> <li>10代の子供が、将来生まれてくる子どもについて理解する。</li> <li>子どもの世界と出会うことによる自己理解を深める。</li> <li>子どもの発達、子どもの心身の発達と特徴について理解する。</li> <li>子どもの食生活、衣食生活について理解を深める。</li> <li>子どもは、親や養育者などの身近な人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。</li> <li>子どもをかくむ、育む意義について理解する。</li> <li>親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えることができる。子育てのための地域や地域の社会的支援について理解する。</li> <li>子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。</li> </ul>	○	○	○	10	
3	11	衣生活をつくる	人と衣服のかかわり 衣服の素材の種類と特徴 衣服の選択から管理まで 被服製作 持続可能な衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>人はなぜ衣服を着るのかを理解する。</li> <li>衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。</li> <li>肌にもやさしい衣生活を営むための要因を理解する。</li> <li>衣服の製造・流通・廃棄の過程と持続可能な衣生活について理解し、用途に応じた素材の選択ができるようにする。</li> <li>衣服の加工技術について理解する。</li> <li>衣服の表示にはどのような種類があるのか、なぜつけているのかを理解し、購入から洗濯までの管理に役立つ。</li> <li>洗濯・乾燥・保管の取り扱いについて理解し、衣服の維持・修理の適切な選択や管理ができるようにする。</li> <li>衣服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。</li> <li>私たちの衣生活が環境や世界とどのようにつながっているのかを理解する。</li> </ul>	○	○	○	11	被服製作 作品提出		
				消費行動を考える	消費行動と意思決定 消費生活の現状と課題 消費者の権利と責任 ライフスタイルと環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>消費行動において、意思決定のプロセスが重要であることを認識する。</li> <li>情報リテラシーを身につける大切さや理解する。</li> <li>契約、多様な販売方法や支払方法、問題解決について理解する。また、被害にあった場合の解決方法についても理解する。</li> <li>消費者の権利と責任について理解し、消費において自主的に行動することの必要性を理解する。</li> <li>消費・環境に配慮したライフスタイルについて考え実行する。</li> <li>日々の暮らしの中で、持続可能な社会をめざした行動をすることができるようになる。</li> </ul>	○	○		○	8
				1	経済的に自立する	暮らしと経済 将来のライフプランニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭経済を国民経済、国際経済の関係性に気づく。</li> <li>家庭の収入や支出、予算生活の必要性について理解する。</li> <li>生活設計とかかわらせて、長期の経済設計の必要性について理解する。</li> </ul>	○		○	○
3	2	住生活をつくる	人間と住まい 健康に配慮した快適な室内環境 安全な住まい 持続可能な住まいづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>住まいはどのような機能を持ち、人の生活がその機能とどうかかわっているか理解する。</li> <li>健康な室内環境をつくるためのさまざまな要素を理解する。</li> <li>安全で長く住み続けるために必要な適切な管理の方法を理解する。</li> <li>家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。</li> <li>日本の住宅政策の目的を理解する。</li> <li>まちの課題について自分なりに解決策を考えることで、一市民としてまちづくりに参画する姿勢を持つ。</li> </ul>	○	○	○	8	3学期期末考査 授業プリント提出		
				3	生活設計	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭総合で学んだことを元に、具体的な人生設計をする。</li> <li>仕事を選ぶうえで、大事にしたいことはなにか考える。</li> </ul>	○	○		○	1

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・ 小テスト	プリント・ レポート	課題・作品	発言・プレ ゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20			50		10	20			100%
Ⅱ 思考・判断・表現	20		50			30				100%
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	30		40			30				100%
評価の重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭生活に関する知識の理解と技術習得の程度</li> <li>講義や実習に取り組む意欲・態度</li> <li>定期テスト</li> </ul>									

令和6年度 「家庭総合」学習指導計画

学科	食物栄養科	コース		学年	1	履修	必修
教科	家庭	科目名	家庭総合	単位数	4のうち2	時数	140のうち70
教科書名(発行所)	家庭総合(実教出版)		副教材(発行所)	2022オールガイド食品成分表(実教出版)			
目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</li> <li>家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。</li> </ul>						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元 (実習項目)	単元の目標 (具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ		
1	4	食生活をつくる	1節 人と食物のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の意義を理解する。</li> <li>日本の食文化形成および和食の特徴を理解する。</li> </ul>	○	○	○	5	1学期中間考査 授業プリント提出
	5		2節 私たちの食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。</li> <li>健康で豊かな食生活をはぐくむための気づきや工夫を理解する。</li> </ul>	○	○	○	5	1学期中間考査 授業プリント提出
	6		技術検定4級に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験に備えた内容を理解する。</li> </ul>	○			2	
2	7	食生活をつくる	3節 栄養と食品のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。</li> </ul>	○	○	○	22	1学期期末考査 2学期中間考査 授業プリント提出
	8		家庭科技術検定3級に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>筆記試験に備えた内容を理解する。</li> </ul>	○			2	
	9		4節 食品の選び方と安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>季節ごとに旬の食材があることを理解する。</li> <li>表示の読み方を理解し、情報を正確に把握する。</li> <li>食品を見分け、よりよい選択ができるようにする。</li> </ul>	○	○	○	14	2学期期末考査 授業プリント提出
3	10	食生活をつくる	5節 食事の計画と調理	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族の食生活の計画と管理ができるようになる。</li> <li>衛生と安全に配慮して、調理することができるようになる。</li> <li>年齢や性別ごとに異なる一日に必要な食事摂取量と、それを満たすための食品の概量を理解する。</li> </ul>	○	○	○	12	3学期期末考査 授業プリント提出
	11		6節 これからの食生活を考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の食料自給率の現状を理解する。</li> <li>日本の食糧事情を解決するためにできることをみつける。</li> <li>情報に惑わされることなく安全な食品を選択できるようになる。</li> </ul>	○	○	○	8	3学期期末考査 授業プリント提出
	12								

70

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・ 小テスト	ノート・ レポート	課題・作品	発言・プレ ゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20		20	50		10				100%
Ⅱ 思考・判断・表現	20		50			30				100%
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	30		40			30				100%
評価の重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>食生活に関する知識の理解と技術習得の程度</li> <li>講義や実習に取り組む意欲・態度</li> <li>定期テスト</li> </ul>									

令和6年度 「家庭総合」学習指導計画

学科	商業科・生活福祉科	コース		学年	3	履修	必修
教科	家庭	科目名	家庭総合	単位数	3	時数	105
教科書名(発行所)	家庭総合 (実教出版)		副教材(発行所)	ニュービジュアル2023 (実教出版)			
目標	・人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭、衣食住、消費や環境など、生活を主体的に営むために科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的に身に付けるようにする。 ・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定、解決策を構想・実践、考察するなど、生涯を見通して生活の課題を解決する力を養う。						

(注) 評価の観点、Ⅰ「知識・技能」Ⅱ「思考・判断・表現」Ⅲ「主体的に取り組む態度」を示す。

学期	月	内容のまとめ	単元(実習項目)	単元の目標(具体的目標)	評価の観点			配当 時数	主な評価方法		
					Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ				
1	4	第3章 子どもとかかわる	1節 子どもとは	・育児を学ぶ意義について理解する。 ・10代の健康が、将来生まれてくる子どもにつながることを理解する。 ・子どもの世界と出会うことによって、自己理解を深める。			○	20	中間考査 期末考査 プリント提出 出席 取り組み状況		
			2節 子どもの発達	・子どもの誕生、子どもの心身の発達と特徴について理解する。 ・子どもは、親や保育者などの身近な大人とのかかわりあいのなかで発達していくことを理解する。	○	○					
			3節 子どもの生活	・子どもの食生活・衣生活、遊びについて理解を深める。	○		○				
	5	4節 子どもをはくくむ	・子どもを生み、育てる意義について理解する。 ・親子関係の課題を理解し、解決に向けてできることを考えることができる。	○	○	○					
		5節 子どものための社会福祉	・子育てのための国や地域の社会的支援について理解する。 ・子どもの権利と福祉の歩みについて理解する。	○	○						
		6	第6章 食生活をつくる	1節 人と食物のかかわり	・食事の意義を理解する。 ・日本の食文化形成および和食の特徴を理解する。	○	○				
2節 私たちの食生活	・自身の食生活の現状把握と今後の課題を理解する。 ・健康で豊かな食生活をはくくむための気づきや工夫を理解する。			○		○					
2	7	第7章 衣生活をつくる	3節 栄養と食品のかかわり	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を身につける。	○		○	35	中間考査または 期末考査 プリント提出 被服製作作品 出席 取り組み状況		
				4節 食品の選び方と安全	・旬の食材を考え、旬の時期がなぜよいか学ぶ。 ・食品衛生(食品の選択、食中毒、食品添加物)について学ぶ。	○					
				5節 食事の計画と調理	・食事摂取基準、食品群別摂取量などを用い、家族の献立作成を行う。 ・調理を通して、基礎的な技術を身につけ、食事マナーを実践する。	○	○			○	
	8	6節 これからの食生活を考える	・食品の自給率や食に関する環境問題について考える。 ・環境に配慮した食生活(食品ロス等)について考える。		○						
			9	第7章 衣生活をつくる	1節 人と衣服のかかわり	・人はなぜ衣服を着るのか、衣服が持つ機能や安全性についての知識を身につける。 ・だれもが快適な衣生活を送るための要因を理解する。					○
					2節 衣服の素材の種類と特徴	・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能や加工技術について理解する。	○			○	
10	3節 衣服の選択から管理まで	・衣服の入手から処分までの流れを学び、衣生活の計画を考える。 ・洗剤・漂白剤・防虫剤などの種類について学ぶ。		○	○						
		11	4節 持続可能な衣生活をつくる	・環境に配慮した衣生活について世界の動向を学び、自分たちができることを考える。	○	○					
				5節 私たちがつなぐ衣生活の	・日本の和服について理解する。	○		○			
12	6節 衣服をつくろう	・袋物の製作を行い、基本的な縫い方を理解する。		○	○	○					
		3	第8章 住生活をつくる	1節 人間と住まい	・生活と住まいの機能とのかかわりについて考える。	○					
				2節 住まいの文化	・日本の伝統的な住居の、建築的な工夫や暮らしの工夫を見つける。 ・日本の住まいの変遷、生活様式などを理解する。	○	○				
3節 住まいを計画する	・ライフステージによる住まいの変化について考える。 ・快適な住まい方を考え、平面計画を立てる。			○	○	○					
1	4節 健康に配慮した快適な室内環境	・室内環境と健康のかかわりを考える。 ・快適な室内環境について、日照・採光・通風・換気・騒音・冷暖房などの要素を学ぶ。		○	○						
		2	5節 安全な住まい	・家庭内事故や災害について学習し、安全な住まい環境について理解する。	○	○					
				6節 持続可能な住まいづくり	・住宅政策の事例について調べ、住まいの課題を考える。 ・居住問題についての法律・制度・施策を調べる。 ・住まいとエネルギー、まちづくりなどの観点から、持続可能な住まいとは何か考える。		○				
3	3						○				

105

【観点別評価】

評価項目・対象	講義	演習	実験・実習	定期考査	実技テスト・小テスト	プリント・レポート	課題・作品	発言・プレゼン	検定・資格	観点別合計
Ⅰ 知識・技能	20			50		30				100%
Ⅱ 思考・判断・表現	10		20			10	50	10		100%
Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度	10		30			30	20	10		100%
評価の重点	・家庭生活に関する知識の理解と技術習得の程度 ・講義や実習に取り組む意欲・態度 ・定期テスト ・提出物									